日本造血細胞移植学会 30年の歩み

JSHCT

パネル展示「日本造血細胞移植学会──30年の歩み」を企画して

第34回日本造血細胞移植学会会長
薗田 精昭

第34回日本造血細胞移植学会学術集会を2012年2月24日(金)～25日(土)の２日間に大阪国際会議場において開催させて頂くにあたり、本学会の30年余りの歴史を振り返るパネル展示「日本造血細胞移植学会──30年の歩み」を企画させて頂きました。

本学会は、1978年に第1回骨髄移植臨床懇話会として発足しています。当時は、名古屋赤十字病院 芳賀圭吾先生、金沢大学第3内科 服部絢一先生、大阪府立成人病センター 千田信行先生、名古屋大学第1内科 山田一正先生が世話人をなさっていました。その後、第3回研究会から日本骨髄移植研究会と名称変更され、第６回の研究会から会長制に移行しています。第7回日本骨髄移植研究会は、柴田昭会長の下で新潟市において開催されています。第13回日本骨髄移植研究会は、現学会会長である小寺良尚先生が名古屋市において主催され、初めて看護師・コメディカルのセッションが設けられました。現在の学会の発展に繋がるご英断であったと考えます。第19回の日本造血細胞移植学会学術集会(原田実根会長)は、それまで続いていた日本骨髄移植研究会が学会へと"grade up"した最初の記念すべき学会であったと思います。学会に移行後は、演題数も300題を超えて、最近では演題数が400～500題、参加者数も2,000人を超える大きな学会に発展して参りました。

私は、丁度、30年余りとなるこの時期に総会会長を拝命致しました。最近は、若い会員の方々が増加しておりますので、このタイミングで過去の本学会の黎明期から、正に発展しつつある本学会の歴史を資料とともに振り返ることを企画しました。学会会長の小寺良尚先生のご挨拶にありますように、造血細胞移植は今なお成熟途上の分野であり、これからも幾度か困難に直面すると考えられます。そのような時に、今日の造血細胞移植の礎を築かれた多くの偉大な先達に導かれて、その困難を乗り越えて造血細胞移植学会が更なる飛躍を遂げることを心より願っています。

本学会の30年の歩み

学会理事長　**今村 雅寛**

日本造血細胞移植学会は正式には1996年から発足しましたが、その前身は1978年の第1回骨髄移植臨床懇話会であり、名古屋赤十字病院 芳賀圭吾先生、金沢大学第3内科 服部絢一先生、大阪府立成人病センター 千田信行先生、名古屋大学第1内科 山田一正先生が世話人でした。その後、1979年の可能性もありますが、確実には1980年に日本骨髄移植研究会と名称変更され、1995年の第18回まで続きました。

初期のころは演題数も少なく、1日で終えることができていましたが、移植成績の向上とともに、演題数と参加者数も増え、1987年第10回目以降からは2日間の会期となることが多くなりました。各種委員会も増え、各々の活動も盛んになっています。2000年からは理事会制度が敷かれ、2006年2月に有限責任中間法人、2009年2月には一般社団法人となりました。最近では参加者2,000人を遥かに超え、演題数も500～600題と増加の一途で、2日間の会期では窮屈な状況になるほど発展を遂げてきています。現在の本学会会員数が約2,500人であることを鑑みますと、実に90%近い会員が総会に出席していることになり、他の学会では見られない特徴を有しています。

造血細胞移植はコメディカルスタッフも含めたチーム医療であるため、発足当初から医師はもとより看護師、栄養士、検査技師、患者支援者など多岐にわたる会員が参加するユニークでかつ自由な雰囲気の学会として機能しており、私も第4回から全て参加してきましたが、その発展ぶりには驚かされます。その時々のトピックスをみますと、造血細胞移植の変遷が一目瞭然となり、感慨深いものがあります。まだまだ変革と向上の余地がありますが、着実に進歩してきているのは事実です。本学会を通してさらに造血細胞移植医療の発展がなされ、それを必要とする患者の治癒率の向上に役だつことが出来れば、長年にわたり本学会会員として活動してきたものの一人としてこの上ない喜びといえます。

「学会の歴史」の企画に当たって

学会会長　**小寺 良尚**

第34回学術集会の薗田精昭会長が、「学会の歴史」を企画されたことは、時宜を得たものであり、敬意を表するものである。歴史を紐解くことは現在及び未来の人々にとって大切なことの一つと信ずるからである。

本学会が1978年に骨髄移植臨床懇話会として発足し、その後研究会と名称を変えて夏冬1年半ごとに開催されていた頃の発起人、演者並びにその施設は抄録集にあるが、大学やがんセンター、一般市中病院が北海道から九州まで、それぞれの移植グループとして記載されていて、ここに本学会の今に続く第一の特徴が既に形成されている。骨髄移植はチーム医療であるとともに、地域グループ医療であり、その地域は最初から全国に広がっていて、各地域で症例検討会を開き、経験を交流し、自己研鑽しながら発展してきたのである。

その後懇話会は研究会と名称を変え、第13回研究会では、看護師を始めとするコメディカルのセッションが初めて設けられ、これも現在に至っている。医療における医師以外の職種が主要構成員として参画したことは、とかく陥りがちな医師の独善を戒め、移植チームの構成員は基本的に対等で役割分担が異なるだけ、という事実を学会員全てに認識させることに役立っていると思う。第14回の研究会が開かれた時を利用して日本骨髄バンクが発足したことも、その後の学会と骨髄バンク、更には学会とさい帯血バンクとの関係を象徴している。今では在るのが当たり前と考えられているこれら造血幹細胞バンクは、患者・患者家族、ボランティアに動かされた国が、医療チームと協力することによって造られ、今もそれらの人々の協力の下に運営されているのである。

第19回の折研究会は学会となり、今の名称に改められ、会員数、学術集会参加者数とも増加の一途をたどってきた。最近までこうした学会の運営は、年次学術集会の会長が一年の任期で担当してこられたが、事業の拡大に伴い任期を２年以上有する理事長制を採用し、それを機に有限責任中間法人格を、更に一般社団法人格を取得した。これは学会が学会員の自由な診療・研究を保証しつつ社会的責務も果たすべくなされた措置である。今学会は全会員を代表する社員（評議員）を基盤に理事、理事長が執行機関としての機能を果たすことで成り立つ現代的組織であり、アジアの中核、世界の仲間の主要な一員として活動を続けている。

現在の学会を、未だ骨髄移植の冬の時代に懇話会として立ち上げられた方々は、時にはGVHDの酷さに、“あんなことまでしなくても”と謗られながら、時にはあまりに頻繁な陳情に時の当局から“変人”扱いされながらも移植を実践し、健康保険の適用を獲得してこられたのである。造血細胞移植は今なお成熟途上の分野であり、これからも幾度か困難に当面するであろうが、そのような時これら偉大な先達はいつも私達の傍らに立たれるであろう。

黎明期 ………「日本骨髄移

第*1*回～*18*回

第*1*回 日本骨髄移植臨床懇話会
1978年(S53) 12月
名古屋
世話人：芳賀 圭五／服部 絢一／千田 信行／山田 一正
演題数：23

第*2*回
（記録なし）

第*3*回 日本骨髄移植研究会
1980年(S55) 1月
金沢
世話人：服部 絢一／千田 信行／山田 一正／芳賀 圭五
演題数：14

第*4*回
1981年(S56) 8月
名古屋
世話人：山田 一正／千田 信
芳賀 圭五／服部 絢一
演題数：27

第*5*回
1982年(S57) 12月
東京
世話人：天木 一太／芳賀 圭五／千田 信行／服部 絢一／山田 一正
演題数：29

第*6*回
1983年(S5
大阪
会長：永井 清保
演題数：39

造血細胞移植に関する主要事項

骨髄移植
末梢血幹細胞移植
臍帯血移植

1980年代後半
自己末梢血幹細胞移植の
臨床応用開始

1988年
フランスでFanconi貧血の5歳男児に世界初の臍帯血移植実施

1982年
中畑龍俊（第23回日本造血細胞移植学会会長が臍帯血中に造血幹細胞を発見）

1991年
骨髄移植推進財団設立許可、
日本骨髄バンク発足

植臨床懇話会」として発足し、「日本骨髄移植研究会」に

行／

3) 11月

第7回

1984年(S59) 11月
新潟
会長：柴田 昭
演題数：39

●海外の研究者（JM Goldman先生）を初めて講演に招待。●特別講演では、服部絢一先生（金沢大学名誉教授）が特別講演。●正岡徹先生（現・骨髄移植推進財団理事長）の司会によるシンポジウム「同種骨髄移植の長期生存阻害要因への対策」が開催された。

中央に招待講演者のJM Goldman先生。若々しい柴田会長、正岡徹先生、森山美昭先生のお顔が見えます。皆さん、髪の毛が真黒です

第8回

1985年(S60) 8月
名古屋
会長：吉川 敏
演題数：49

第9回

1986年(S61) 12月
大阪
会長：正岡 徹
演題数：49

第10回

1987年(S62) 2月
東京
会長：辻 公美
演題数：63

第11回

1988年(S63) 12月
金沢
会長：松田 保
演題数：58

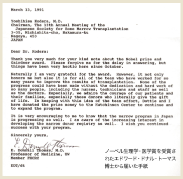
第12回

1989年(H1) 12月
東京
会長：高久 史麿
演題数：86

第13回

1991年(H3) 1月
名古屋
会長：小寺 良尚
演題数：116

●抄録集に日本語と英語を併記したのは新しい試みで、海外の主な移植センターに送付。●看護師・コメディカルのセッションを初めて設けた。●日本骨髄移植研究会の規約と役員が決まり、恒常的な事務局が設けられた。●当時の理事には、正岡徹、宮崎保、柴田昭、高久史麿、辻公美、仁保喜之、斎藤英彦、浅野茂隆、小寺良尚の9名の方が就任。●第2回APBMT学術総会（会長・正岡徹）とジョイントして開催。●1990年に骨髄移植を開発した功績でノーベル生理学・医学賞を受賞されたエドワード・ドナル・トーマス博士に、日本骨髄移植研究会を代表して御祝いの手紙を送付し、返事（1991年3月13日付）をいただく。



March 13, 1991

Yoshihisa Kodera, M.D.
Chairman, The 13th Annual Meeting of the
Japanese Society for Bone Marrow Transplantation
3-35, Michishita-cho, Nakamura-ku
Nagoya, 453
JAPAN

Dear Dr. Kodera:

Thank you very much for your kind note about the Nobel prize and Gairdner award. Please forgive me for the delay in answering, but things have been very hectic here since October.

Naturally I am very grateful for the award. However, it not only honors me but also it is for all of the team who have worked for so many years to improve the results of transplantation. None of the progress could have been made without the dedication and hard work of so many people, including the nurses, technicians and staff as well as the doctors. Especially, we admire the courage of our patients and their families, especially those donors who literally give the gift of life. In keeping with this idea of the team effort, Dottie and I have donated the prize money to the Hutchinson Center to continue and to expand the program.

It is very encouraging to me to know that the marrow program in Japan is progressing so well. I am aware of the increasing interest in developing the marrow donor registry as well. I wish you continued success with your program.

Sincerely yours,

E. Donnall Thomas

E. Donnall Thomas, M.D.
Professor of Medicine, UW
Member FHCRC

EDT/dt

ノーベル生理学・医学賞を受賞されたエドワード・ドナル・トーマス博士から届いた手紙

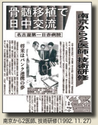
第14回

1991年(H3) 12月
札幌
会長：宮崎 保
演題数：120

第15回

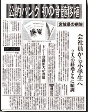
1992年(H4) 12月
福岡
会長：仁保 喜之
演題数：156

NMDPから提供を受けた骨髄移植患者さんとともに。前列の右端が小寺会長



骨髄移植で日中交流
南京から2医師、技術研修
名古屋第一日赤病院
将来はバンク連携の夢

南京から2医師、技術研修（1992. 11. 27）



公的バンク 初の骨髄移植
宮城県の病院
会社員から小学生へ
2人の経過ともに順調
ドナー登録拡大が課題

公的バンク初の骨髄移植（1993. 1. 29）

第16回

1993年(H5) 12月
横浜
会長：長尾 大
演題数：178

●公的骨髄バンクドナーからの初めての骨髄移植が行われた記念すべき年。●長尾先生は研究会会長として、造血幹細胞移植例の全国集計を実施し、会長講演として発表。

第17回

1994年(H6) 12月
大阪
会長：柴田 弘俊
演題数：182

第18回

1995年(H7) 12月
東京
会長：浅野 茂隆
演題数：243

発展期 …… 「日本造血細胞移植学会」に改称。

第19回～34回

第19回

JSHCT 1996
Abstracts
第19回日本造血細胞移植学会総会抄録集

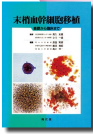
1996年(H8)　12月19・20日
ホテルグランヴィア岡山
原田 実根（岡山大学医学部第二内科）

演題数
330

●特別講演　「免疫制御の分子戦略」　奥村 康
●会長報告
「造血幹細胞移植1996年全国調査」　原田 実根
●服部記念シンポジウム
服部 絢一／Robert Peter Gale／Alois Gratwohl
●シンポジウム
Ⅰ「MRD, GVLそしてDLT」
Ⅱ「多様化する造血幹細胞移植における看護の役割」
Ⅲ「わが国における非血縁者間骨髄移植の現状評価と今後の方策」

日本の骨髄移植のパイオニアとして活躍された服部絢一先生を記念するシンポジウム（服部記念シンポジウム）を会長シンポジウムのような位置づけで開催。

日本骨髄移植研究会が、日本造血細胞移植学会へと“grade up”した最初の記念すべき学術集会。演題数が初めて300題を超え、参加者数も1,500人を超えた。

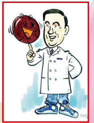


末梢血幹細胞移植
基礎から臨床まで

第19回総会会長の原田実根先生、高上洋一先生、第34回総会会長の薗田精昭の３名が編集に携わり、日本で初めての「末梢血幹細胞移植」に関する専門書として刊行された書籍

第20回

第20



池田先生が学生時代にバスケット部だったことから、このようなイラストになった

1997年(H9)　12月18・19日
東京国際フォーラム
池田 康夫（慶應義塾大学医学部）
テーマ：21世紀の細胞治療への力の結集
── 新しい医療体制を目指して

●特別講演　「造血システムの発生と分化」　仲野 徹
●会長報告　「造血幹細胞移植1997年全国調査」
●招待講演
Ⅰ　Paul J. Martin
Ⅱ　Lothar Kanz
Ⅲ　Frank J. Hsu
Ⅳ　Juanita Madison
●シンポジウム
Ⅰ「我が国の医療体制と造血幹細胞移植医療」
Ⅱ「移植不成功例・移植後再発例のケアー」
Ⅲ「細胞治療の最前線」

懇親会後の2
見えます

1992年
ドナー登録受付開始、コーディネート開始

1993年
公的骨髄バンクを介する骨髄移植第1例実施

1994年
ドナー登録者数
5万人突破

1994年
自己末梢血幹細胞移植の保険診療承認

1994年
東海大学で日本最初の血縁者間臍帯血移植実施

1995年
『末梢血幹細胞移植──基礎から臨床まで』を出版（南江堂）

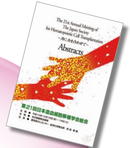
1995年
日本で最初の「神奈川臍帯血バンク」設立

演題数と参加者数は右肩上がりに

第21回

1998年(H10)　12月18・19日
名古屋国際会議場
森島 泰雄（愛知県がんセンター 血液化学療法部）
テーマ：共に力を合わせて

演題数
438


The 21st Annual Meeting of
The Japan Society
for Hematopoietic Cell Transplantation
～共に力を合わせて～
Abstracts
第21回日本造血細胞移植学会総会

テーマの「共に力を合わせて」は、造血細胞移植に関わるすべての人々が集い、学ぶ場になっていることを意味する。

●特別講演
Ⓐ 十字 猛夫　Ⓑ Clare A. Dykewicz
Ⓒ 谷本 光音　Ⓓ Bertrand Coiffier
Ⓔ John R. Wingard　Ⓕ James J. Vrendenburgh
Ⓖ Keith M. Sullivan　Ⓗ JH Frederik Falkenburg
Ⓘ 原 宏　Ⓙ 池原 進

●教育講演
① 権藤 久司　② 葛島 清隆　③ 東 英一
④ 宮村 耕一　⑤ 平林 紀男　⑥ 高本 滋
⑦ 矢野 邦夫　⑧ 塩原 信太郎　⑨ 秋山 祐一

●シンポジウム
Ⅰ「GVHDの臨床」
Ⅱ「自家造血幹細胞移植の動向と臨床研究の成績」
Ⅲ「日本における造血幹細胞移植の現状と将来展望」

●ガイドラインコンセンサスミーティング
「白血病における同種骨髄移植の適応」

造血幹細胞移植療法の多様化に基づいて、細胞療法、臍帯血移植などに関する多数の特別講演、教育講演を設けた点が特徴。

本邦で行われた約10,000例の造血細胞移植症例の臨床成績が発表された。

回日本造血細胞移植学会総会
Abstracts
21世紀の細胞治療への力の結集
―新しい医療体制を目指して―

本学会のポスター、プログラム、テレホンカードなどのデザインは、慶應義塾大学病院で骨髄移植を受けた患者さんたちが作成。

演題数
351

次会。池田会長、岡本真一郎先生のお顔が

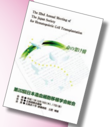
第22回

1999年(H11)　12月16・17日
広島国際会議場
土肥 博雄（広島赤十字・原爆病院）
テーマ：命の架け橋

演題数
395

「命の架け橋」は、造血細胞移植が此方の生命からもう一方の生命への架け橋であることを意味している。

広島国際会
回 日本造血細胞移植学
Annual Meeting of The Japan Society for Hematopoietic Cell
national


The 22nd Annual Meeting of
The Japan Society
for Hematopoietic Cell Transplantation
命の架け橋
第22回日本造血細胞移植学会総会

●特別講演
① Sergio A. Giralt　② J. Kurtzberg
③ J. Downing　④ Daniel E. Furst　⑤ 金島 秀人

●教育講演
① 岡本 真一郎　② 小寺 良尚　③ 平林 紀男
④ 佐治 博夫　⑤ 佐竹 幸子　⑥ 谷 憲三郎
⑦ 楠 洋一郎

●ガイドライン委員会よりの報告　「GVHDガイドライン」

●緊急報告　「東海村核燃料施設事故後の造血細胞移植」

●シンポジウム
Ⅰ「骨髄移植関連TMA」
Ⅱ「同種末梢血幹細胞移植、その基礎と臨床」
Ⅲ「小児の移植における告知と精神的ケア」

●公開シンポジウム　「造血細胞バンクの将来」

1990年度のノーベル生理学・医学賞を受賞したトーマス博士の記念講演が企画されたが、健康上の理由から来日が叶わなかったことが残念。

特別講演として岸本忠三先生（大阪大学）、招待講演としてIrving L. Weissman先生（スタンフォード大学）が講演されたことが特筆される

第23回

2000年(H12)　12月8・9日
国立京都国際会館
中畑 龍俊（京都大学大学院医学研究科 発達小児学）
テーマ：新しい世紀の扉を共にあけよう

演題数
418

第23回日本造血細胞移植学会総会
新しい世紀の扉を共にあけよう
The 23rd Annual Meeting of
The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

●特別講演　岸本 忠三

●招待講演
① Viki Anders　② Donna Przepiorka
③ William I. Bensinger　④ Marina Cavazzana-Calvo
⑤ Irving L. Weissman　⑥ Richard Childs
⑦ Martin F. Pera

●教育講演
① 浅野 茂隆　② 中尾 眞二　③ 福田 恵一
④ 珠玖 洋　⑤ 内山 卓　⑥ 松島 綱治

●ガイドライン委員会よりの報告
「造血幹細胞移植後早期の感染管理に関するガイドライン」
「同種末梢血幹細胞移植のための健常人ドナーからの末梢血幹細胞の動員・採取に関するガイドライン」

●シンポジウム
Ⅰ「造血幹細胞研究のフロンティア」
Ⅱ「造血細胞移植後のウィルス感染症」
Ⅲ「細胞治療の新展開」
Ⅳ「臍帯血移植の基礎と臨床」

●公開シンポジウム
「あなたはどんな選択をしますか？：造血細胞移植それぞれの利点と限界」

2000年は、フランスで造血幹細胞を用いた遺伝子治療の世界初の成功例が報告され、わが国で同種末梢血幹細胞移植の保険適応が認められた年である。

Stanford大学のWeissman教授など、外国招待者の方々

第24回

第24回
日本造血細胞
移植学会総会

2001年(H13)　12月20・21日
北海道厚生年金会館／札幌市教育文化会館
今村 雅寛（北海道大学大学院医学研究科癌制御医学講座 血液内科）
基本コンセプト：英知の結集

演題数
447

●特別講演
① 高久 史麿　② 中畑 龍俊

●会長講演
「日本における造血細胞移植――2001年全国調査」

●招待講演
① Catherine M. Verfaillie　② Cheryl Kosits
③ Beverly torok-Storb　④ 須田 年生
⑤ Gerard Socié　⑥ Neil L. Berinstein
⑦ Joyce L. Neumann

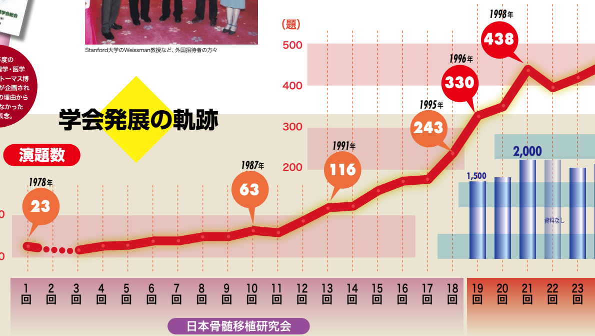
●教育講演
① 藤堂 省　② 浅野 茂隆　③ 西村 孝司　④ 佐渡 敏彦
⑤ 佐治 博夫　⑥ 高橋 恒夫　⑦ 葛島 清隆　⑧ 中尾 眞二
⑨ 平井 久丸　⑩ 小澤 敬也

●特別シンポジウム　「Immunobiology of Cell Therapy」

●シンポジウム
Ⅰ「移植患者管理の簡略化について」
Ⅱ「同種造血幹細胞移植と免疫寛容」
Ⅲ「ALLに対する造血細胞移植の適応と成績～小児、成人を比較して」

●ガイドライン委員会よりの報告
「造血幹細胞移植の適応ガイドライン：
とくに慢性骨髄性白血病におけるSTI571と移植の適応について」

学会発展の軌跡



1998年
臍帯血移植の
保険診療承認

1999年
日本さい帯血バンクネットワーク発足
公的臍帯血バンク事業開始

2001年
非血縁者間臍帯血移植
500例突破

2003年
非血縁者間臍帯血移植
1,000例突破

1997年
骨髄移植
1,000例到達

1997年
横浜市大病院で臍帯血バンクを介した最初の非血縁者間臍帯血移植実施

1998年
ドナー登録者数
10万人突破

2000年
同種末梢血幹細胞移植の
保険診療承認

2003年
骨髄移植
5,000例到達

2004年
ドナー登録者数
20万人突破

第25回

2002年（H14）　10月24・25日
大阪国際会議場
河 敬世（大阪府立母子保健総合医療センター・小児内科）
テーマ：バリアを超えて

演題数
410

第25回 日本造血細胞移植学会総会
―バリアを超えて―

HLAのバリア、年齢のバリア、人種や国境のバリアを超えること。これらを克服することで、病苦と対峙しているすべての患者さんに最良の医療を提供するという本学会の使命を全うできる。

- ●特別講演
  - ① Erwin W. Gelfand
  - ② 正岡 徹
- ●招待講演
  - ① 池原 進　② 福原 資郎
- ●シンポジウム
  - ①「ミニ移植の適応と問題点」
  - ②「SCTの新たな適応――自己免疫疾患」
  - ③「急性白血病における“化学療法 VS SCT”」
  - ④「移植患者・家族のQOL」
- ●特別セミナー
  - ①「SCTとウイルス感染」
  - ②「免疫抑制剤の適正な使い方」
  - ③「血縁者間ミスマッチ移植」
  - ④「Skin Careと移植看護」
- ●公開セミナー　「がんと免疫療法の最前線」
- ●日韓交流公開シンポジウム
  「命のボランティアでつなぐ日韓交流」

2002年は、サッカーのワールドカップが日韓共同開催された年。これを記念して、日韓交流の骨髄バンク支援公開フォーラムを開催。

ハローウィンの季節にUSJで開催された評議員懇親会後の写真。河会長もお顔にペインティングされています

会期　平成16年12月16日
会場　ホテルグランヴィア
ママカリフォーラム

第27回

2004年（H16）　12月16・17日
ホテルグランヴィア岡山／ママカリフォーラム
谷本 光音（岡山大学大学院医歯学総合研究科病態制御科学専攻）
テーマ：新しい医療の確かな証を求めて

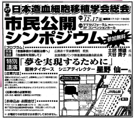
演題数
468

第27回
日本造血細胞移植学会総会
新しい医療の確かな証を求めて
The 27th Annual Meeting of The Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation

造血細胞移植療法の今日的な課題である各種治療法選択や、その対象となる疾患および実施病期などを中心とした討議とコンセンサス作りを目指して、このテーマが選ばれた。

- ●会長講演　「RISTのNationwide survey 2004」
- ●シンポジウム
  - ①「RIST：適応と限界」
  - ②「GVHD：基礎研究から臨床応用への時代」
  - ③「移植看護の専門性を高める看護師の教育」
  - ④「多様化する臍帯血移植」
- ●特別企画
  - ①「造血細胞移植と女性の不妊」
  - ②「小児の移植看護」
- ●市民公開シンポジウム
  - ① 医療講演　土肥 博雄・大谷 貴子
  - ② 特別講演　「夢を実現するために」
    星野 仙一

2004年度から、コメディカルの中でも看護部会が正式に発足。


第27回 日本造血細胞移植学会総会
市民公開シンポジウム
参加無料
12・17（金）開演17:10～19:00
ママカリフォーラム 3F コンベンションホール
【プログラム】
医療講演「骨髄移植から細胞治療へ」広島赤十字原爆病院 院長 土肥 博雄 氏
「白血病を克服して」全国骨髄バンク推進連絡協議会副会長 大谷 貴子 氏
特別講演「夢を実現するために」阪神タイガース シニアディレクター 星野 仙一 氏
【応募方法】
【お申込み・お問合せ】

市民公開シンポジウムで、阪神タイガースシニアディレクターの星野仙一さん（現、楽天ゴールデンイーグルス監督）の特別講演がありました

法人
設立総会

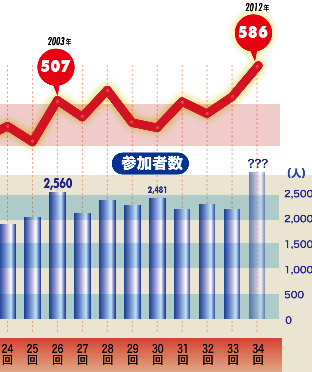
第28回

2006年（H18）　2月
東京国際フォーラム
坂巻 壽（東京都立駒込病院
テーマ：質の高い治癒をめ

- ●会長講演　「我が国における造血細胞移植の
  ――2005年全国統計より」
- ●シンポジウム
  - ①「造血細胞移植後の合併症（1）」
  - ②「造血細胞移植後の合併症（2）」
  - ③「造血細胞移植の適応拡大」
  - ④「移植患者の栄養管理」
- ●特別企画
  「造血細胞移植登録一元化および新薬承認にあたっての学会集計事業の特別対応」
- ●市民公開フォーラム
  「より良い移植医療のために
  ――患者・家族を囲む支援体制の向上」
- ●特別講演
  「宇宙からの贈りもの」
  毛利 衛

市民公開講座の特別講演で、宇宙飛行士の毛利衛さんが「宇宙からの贈り物」と題して講演されました

尊い命、つなげる絆。
第29回
日本造血細胞移植学



日本造血細胞移植学会

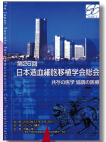
Marine Rouge
マリーンルージュ

評議員懇親会として学会前日に横浜湾でマリン・ルージュをチャーターしてクルーズをしました

第26回

2003年（H15）　12月19・20日
パシフィコ横浜
加藤 俊一（東海大学医学部基盤診療学系再生医療科学）
テーマ：共存の医学　協調の医療

演題数
507



学会のポスター（抄録集の表紙）の下段には、右にキメラ像、左にオシリス像が隠されている。キメラは、ギリシャ神話に登場する想像上の動物で、頭がライオン、胴体が山羊、尻尾が蛇という魔物。移植などで人為的に造り出される「キメラ」の語源。一方、オシリスは、エジプト神話に登場する再生の神。

- ●Meet the expert
  - ① Catherine M. Verfaillie
  - ② 福田 昇
- ●会長講演　「多様化する造血細胞移植
  ――2003年全国登録より」
- ●シンポジウム
  - ①「臍帯血移植」
  - ②「造血細胞移植チーム医療」
  - ③「非血縁者間骨髄移植」
  - ④「再生医療」
- ●特別企画　「ドナーの安全確保のために」
- ●看護セミナー
  「造血細胞移植における看護、その継続的関わりについて考える――欧米と日本の現状から」
- ●特別プログラム　市民公開講座
- ●骨髄バンク感謝のつどい
  「移植経験者に学ぶ ドナー経験者に学ぶ」
  ビデオ参加　東 ちづる

世界的テノール歌手であるホセ・カレーラス氏と会長のtwo shot。カレーラス氏は、ご自身も急性骨髄性白血病で骨髄移植を受けて社会復帰されており、骨髄バンクの支援活動に熱心に取り組まれている。

ビデオ参加された東ちづるさんと加藤会長

第29回 日本造血細胞移植学会総会
尊い命、つなげる絆。
JSHCT
第29回
日本造血細胞移植学会総会
尊い命、つなげる絆。

岡村純会長のご挨拶

2004年
非血縁者間
臍帯血移植
2,000例
突破

2008年
骨髄移植
10,000例
到達

24・25日

血液内科）

ざして

演題数
531

動向

強力な治療である造血細胞移植には治癒の期待が高いものの、厳しい合併症が立ちはだかっているのが現状である。本総会の成果が移植後の合併症を減らし、あるいは、それを乗り越えて移植患者さんの治療成績とQOLの向上に繋がるように、このテーマが選ばれた。

第30回

2008年（H20）　2月29日・3月１日
大阪国際会議場
平岡 諦（大阪府立成人病センター　血液・化学療法科）
テーマ：What’s the next?
30周年、更なる発展に向けて

演題数
443

- ●特別講演　Mary M. Horowitz
- ●シンポジウム
  ①「TBI の現状と工夫」
  ②「急性被曝障害のマネジメント」
  ③「Mesenchymal Stem Cell and Hematopoietic Stem Cell Transplantation」
- ●公開討論会　「インフラ整備：登録一元化と新認定制度」
- ●合同シンポジウム
  ①「細胞移植・再生医療における品質管理のあり方」
  ②「HLAと同種造血幹細胞移植」
- ●看護シンポジウム　「造血細胞移植医療現場のジレンマ」
- ●看護教育セミナー
  ①「造血細胞移植医療の変遷」
  ②「造血細胞移植における感染管理」
- ●アジア造血細胞移植看護カンファレンス
  「日本・韓国・台湾の造血幹細胞移植看護の現状」
- ●市民公開フォーラム

次世代骨髄移植、インフラ整備が取り上げられた。

本学会が産声をあげた第1回骨髄移植臨床懇話会の23演題の抄録が掲載されたことはユニークな試み。

コンセンサスミーテイングにて。小島会長、次期会長の中尾先生、中畑先生のお顔が見えます

移植医療は「evidence」だけでなく、患者や家族、あるいは医療従事者の「見込みや期待＝prospect」で左右されていることから、このテーマが選ばれた。

第32

2010年（H22）　2月19・2
アクトシティ浜松／オークラアク
小島 勢二（名古屋大学大学院医学系研
テーマ：移植医療の選択：Eviden

- ●Keynote Lecture　Neal S. You
- ●Presidential Symposium
  「Stem Cell Transplantation for Bo
- ●シンポジウム
  ①「医師／看護部門合同シンポジウム
  ②「KSBMT/JSHCT Joint S ymp
  ③「Cell Therapy for Intractable Infe
- ●プレナリーセッション
- ●Pro/Con
  （Ⅰ）「幹細胞ソースの選択」
  （Ⅱ）「多発性骨髄腫における同種造血
- ●看護シンポジウム　「意思決定支援
- ●看護教育セミナー　曽我 賢彦
- ●市民公開講座　「より良い移植医療

第29回

2007年（H19）　2月16・17日
福岡国際会議場
岡村 純
（独立行政法人国立病院機構九州がんセンター　臨床研究部）
テーマ：尊い命、つなげる絆。

演題数
455

- ●特別セミナー
  ①「慢性GVHDの病態と治療戦略」
  ②「抗ウイルス療法としての同種移植療法：ATL」
  ③「幹細胞移植における説明と同意のありかた」
- ●会長報告
  「造血細胞移植の現状と動向――2006年全国統計から」
- ●シンポジウム
  ①「GVLとGVHDは分けられるか？」
  ②「日本の造血幹細胞移植医療はこのままでよいのか？」
  ③「20年目の移植後合併症を防ぐには？」
  ④「自立へ向けてのソーシャルサポート」
- ●市民公開講座　「幹細胞移植と心のつながり」
  第1部　パネルディスカッション
  第2部　「心は無限のミステリー」　夏樹 静子

本総会は、①女性が多く登場していること、②移植医療とは普段関係が薄い方からも広く意見を求めることをモットーにプログラム編成がなされた。シンポジウム、セミナーの発表者の３分の１は非会員の女性。

特別セミナー3会場に1,540名の参加があり、なかでも「説明と同意」の会場は満員に。このほか、早朝７時半開始のモーニングセミナーには700名の参加があった。

特別セミナー3の総合討論のようす

よさこいソーラン祭り優勝常連の平岸天神チームによる華麗な演舞

「さっぽろ雪まつり」の期間中に開催され、参加者は雪まつりを楽しむことができた。

札幌市での開催であり、蝦夷開拓者魂と、さまざまな困難の横たわる移植医療に立ち向かう熱い魂を共有する場としての学会をイメージしてこのテーマが取り上げられた。

第31回

2009年（H21）　2月5・6日
ロイトン札幌／札幌市教育文化会館／北海道厚生年金会館
笠井 正晴（特定医療法人 北楡会 札幌北楡病院）
テーマ：パイオニアスピリットと移植医療の進歩

演題数
504

- ●会長講演　「最新の移植成績」
- ●シンポジウム
  ①「同種移植時の免疫細胞療法の進歩」
  ②「Chronic GVHD-Recent Progress and Controversy」
  ③「臍帯血移植療法の進歩」
  ④「自家造血幹細胞移植のUpdate」
- ●合同シンポジウム「非血縁PBSCTに向けて」
- ●特別セミナー
  ① John E. Levine　② Tom M. Chiller
- ●看護シンポジウム
  「患者を支える人（ケアギバー）への支援」
- ●看護教育セミナー
  ① 品川 克至　② 藤澤 めぐみ
- ●市民公開講座
  「骨髄バンク移植1万例、さい帯血バンク移植5千例の歩み記念講演会」

移植医療の原点に返り、現状を把握し、将来の更なる発展に向けて考える場とするために、このテーマが選ばれた。

原雅道会長とスタッフ

2008年
ドナー登録者数
30万人
突破

2008年
非血縁者間
臍帯血移植
5,000例
突破

2009年
日本さい帯血バンクネットワーク
設立10周年

2010年
同種末梢血幹細胞移植のための健常人ドナーからの末梢血幹細胞動員・採取に関するガイドライン（日本造血細胞移植学会）

2010年
非血縁者間
臍帯血移植
6,000例
突破

2回

0日
クトシティホテル浜松
究科小児科学）
ce vs Prospect

演題数
476

ng

he Marrow Failure Syndrome」

造血幹細胞移植における感染対策」
osium」
ctions and Malignant Diseases」

幹細胞移植の適応」
—揺らぐ人々への看護の役割」

・より良い治癒」

第32回
日本造血細胞移植学会総会
2010年2月19日・20日
アクトシティ浜松・オークラアクトシティホテル浜松
小島 勢二

新しい試みとして、日本造血細胞移植学会と韓国骨髄移植学会との合同シンポジウムを開催。「移植医療の国際協力」という観点から高く評価される。

第33回

JSHCT
第33回
日本造血細胞移植学会総会
将来を見つめて移植の原点を考える

2011年（H23）　3月9・10日
愛媛県県民文化会館／愛媛看護研修センター
原 雅道（愛媛県立中央病院がん治療センター血液腫瘍内科）
テーマ：将来を見つめて移植の原点を考える

演題数
515

- Presidential Lecture
「急性白血病に対する造血幹細胞移植の成績」
- シンポジウム
①「急性白血病の移植前処置はいかにあるべきか」
②「GVHD制御とGVL」
③「細胞移植・細胞治療に関する国・学会の指針と基盤整備」
（日本造血細胞移植学会/日本輸血細胞治療学会/日本再生医療学会合同シンポジウム）
④「日韓合同シンポジウム」
⑤「移植後感染症の克服に向けて」
- 看護シンポジウム
「育てられる移植看護師——看護師の成長体験から」
- 看護特別セミナー　大棟 耕介
- 看護教育セミナー　① 豊嶋 崇徳　② 田中 秀子
- アジア造血細胞移植看護カンファレンス　森 一恵
- 市民公開講座　「Memorial & Survivorship
——あの時、こんな想いがあった。そして、今を生きる」

懇親会にて。小寺学会会長、原雅道会長、原田先生

の皆さまの記念写真

第34回

造血幹細胞移植療法は、常に臨床が先行し、基礎研究がそれを追いかける形で発展。本学会では、従来の学会とは少し違った角度から、造血幹細胞移植の根幹をなす造血幹細胞の基礎研究にもスポットライトを当てて、関連する領域の最近の研究の進歩をも取り上げることを目指して、このテーマが選ばれた。

JSHCT
第34回
日本造血細胞移植学会総会
2012 OSAKA
基礎研究から新しい移植医療の臨床応用へ
“from the bench to the bed side”

プログラム・抄録集のスタイルが一新されている。特に、デザイン性、視認性、使い易さ、持ち運びの便利さなどに工夫が凝らされている。

2012年（H24）　2月24・25日
大阪国際会議場
薗田 精昭（関西医科大学大学院医学研究科
先端医療学専攻修復医療応用系幹細胞生物学）
テーマ：基礎研究から新しい移植医療の臨床応用へ
“from the bench to the bed side”

演題数
586
過去最高

特別講演 1

Tsvee Lapidot先生

特別講演 2

Mariusz Z. Ratajczak先生

- 特別講演1
Tsvee Lapidot (Weizmann Institute of Science, Israel)
- 特別講演2
Mariusz Z. Ratajczak (University of Louisville, USA)
- 会長シンポジウム
“Cord blood stem cell transplantation (CBSCT):
from the bench to the bed side”
Keynote lecture:
Hal E. Broxmeyer (Indiana University School of Medicine, USA)
Yoshiaki Sonoda (Kansai Medical University)
Kyung-Sun Kang (Seoul National University, Korea)
Hiroyasu Ogawa (Hyogo College of Medicine)
Shuichi Taniguchi (Toranomon Hospital)
- 合同シンポジウム　「造血幹細胞移植の未来」
（日本造血細胞移植学会／日本再生医療学会）
- 特別企画シンポジウム
「放射能被曝がもたらす病態と
造血幹細胞移植の役割 —— 過去、現状、今後」
- 看護シンポジウム　「急性GVHDの看護」
- プレナリーセッション
- 教育講演
① 片山 義雄　② 前田 嘉信　③ 植村 靖史　④ 森尾 友宏
⑤ 中尾 眞二　⑥ 河本 宏　⑦ 佐々木 豊　⑧ 赤司 浩一
⑨ 井上 雅美　⑩ 辻 浩一郎　⑪ 池亀 和博
- 看護教育セミナー　「造血幹細胞移植後の晩期障害」
- 医学部学生・初期臨床研修医セッション
- 市民公開講座　「造血細胞移植でがんはどこまで治せるか」

世界で初めて臍帯血移植を行った米国のHal E. Broxmeyer先生のkeynote lectureを予定。

合同シンポジウムでは、近未来の新しい移植医療の可能性についても紹介。

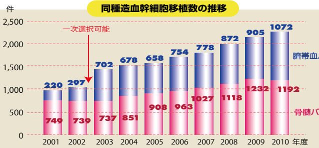
教育講演
復活

医学部学生・初期臨床研修医セッションを新設。

会長シンポジウム

Hal E. Broxmeyer先生

同種造血幹細胞移植数の推移



2011年
ドナー登録者の累計数
50万人突破
（現在数392,092人）
累積移植患者数**13,397名**

2012年1月1日現在
非血縁者間臍帯血移植
8,000例突破
累積移植患者数 **8,072名**
公開臍帯血数 **29,753**